



とみた ゆきひろ  
富田幸宏  
湯河原町長

**山口** 確かにそうです。熱海と湯河原の人は、けっこう箱根に勤めに来ているんです。そういう意味では、熱海と湯河原とは、市長が言ったように住民は机上の線を意識することなく、行動しています。

広域行政は、それぞれの優れた資源を活用して観光客に楽しんでいただくことだと思っていますが、今回の観光圏では、熱海や伊東を含めた伊豆半島という大観光地がある中で、県境を越えるところに意味があると思っています。

**富田** 世界の箱根と熱海が手を組むことで、国内的にはインパクトが強いのだと思います。2市町に比べると湯河原の認知度が低いのはわかっていますが、逆にこの機会に、その2市町の間に湯河原があることを発信していくことが重要だと考えています。

首都圏の観光客は、湯河原よりも熱海が手前だと思っていますし、行政境の意識なんてなく行動していると思います。

## ■ 観光圏に期待すること

**山口** 3市8町の観光圏（※3ページ参照）が認められて、率直に良かったなと思っています。これからの日本の総人口は減少期に入っていますから、これまでの水準、また、それ以上の水準を得るためには、海外に市場を求めなければいけません。その一つの大きな市場はアジアです。

そうすると、1泊して見て帰る、一つの市町村で完結する観光は難しいでしょう。それよりも広域に点在している優れた資源を線で結んで、1泊のところをもう1泊して他の観光地を見てもらう。そういったことに圏域の意義があるし、また、この3市8町の圏域だからできると思います。

山もあり湖もあり海もあり、その中に産業もありと、それだけの資源があると思っています。先ほどごちそうになった熱海産だいだいのマーマレードなど、

地域の資源を活用すれば、1泊ではなく2泊3日のコースが観光客に提供できると思いますし、訪日外客を増やす、また、満足してもらうためにも観光圏の認定は良かったなと思います。

**富田** 3市8町での観光圏が認められ、枠組みが確定したということは、多くの方のご努力があったのことだと思っています。



『だいだいマーマレード』

観光面では、この地域がお客様を受け入れる体制作りを、観光の歴史があるこの1市2町を中心にできればと、個人的には思っています。観光以外の面でも、住民の方々が個人レベルで情報交換していたものや埋もれていたものが、足柄上郡側にもあると思います。そういったものがあぶりだされることで、さまざまな形で提供でき、圏域の住民に還元できると思います。

## ■ 圏域で循環していく社会

**齊藤** 観光圏の重要なテーマの一つに、交通手段があると思っていますが、箱根と熱海の間には鉄道がありませんから、車やバスが主体になると思います。先日熱海駅から出ている元箱根行きのバスが、子どもたちに人気のキャラクターでラッピングされ、箱根園まで延伸しました。



『ラッピングバス』

箱根との連携では、特にインバウンド（外国人誘客）に期待しています。また、熱海は伊豆半島の玄関口に位置することから、そのお客様を伊豆半島に回



さいとう さかえ  
齊藤 栄  
熱海市長